

公立小中学校の都道府県別の偏差値を推計して比較すると

都道府県	偏差値合計			平均偏差値	順位
	小学校	中学校	小中合計		
石川県	210.03	205.71	415.74	51.97	1
秋田県	208.44	207.18	415.62	51.95	2
福井県	207.99	207.61	415.60	51.95	3
富山県	205.63	205.25	410.88	51.36	4
静岡県	202.77	203.22	405.99	50.75	5
広島県	205.58	200.37	405.95	50.74	6
愛媛県	203.59	202.17	405.76	50.72	7
東京都	203.27	201.75	405.01	50.63	8
青森県	204.40	200.03	404.43	50.55	9
山口県	201.87	201.43	403.30	50.41	10
新潟県	203.16	199.47	402.63	50.33	11
香川県	201.15	201.46	402.61	50.33	12
京都府	202.43	200.14	402.56	50.32	13
岐阜県	200.22	201.28	401.50	50.19	14
茨城県	200.87	200.50	401.37	50.17	15
鳥取県	200.47	200.41	400.89	50.11	16
兵庫県	199.83	200.97	400.80	50.10	17
群馬県	197.93	201.81	399.75	49.97	18
長野県	200.54	199.11	399.65	49.96	19
徳島県	199.66	199.31	398.98	49.87	20
高知県	203.56	195.25	398.81	49.85	21
全国(公立)	199.48	199.10	398.57	49.82	全国平均
愛知県	197.05	201.23	398.28	49.79	22
山形県	198.53	199.39	397.92	49.74	23
山梨県	198.83	198.68	397.51	49.69	24
奈良県	198.09	199.27	397.35	49.67	25
長崎県	199.35	198.00	397.35	49.67	26
島根県	199.38	197.87	397.24	49.66	27
大分県	199.77	197.11	396.88	49.61	28
千葉県	198.89	197.88	396.77	49.60	29
神奈川県	197.92	198.79	396.71	49.59	30
宮城県	197.02	199.55	396.57	49.57	31
三重県	199.45	197.03	396.47	49.56	32
岩手県	200.93	195.53	396.46	49.56	33
福岡県	199.15	196.71	395.86	49.48	34
宮崎県	198.60	196.69	395.29	49.41	35

福島県	198.73	195.92	394.65	49.33	36
岡山県	199.48	195.10	394.57	49.32	37
埼玉県	197.17	196.99	394.16	49.27	38
栃木県	195.78	198.34	394.12	49.27	39
佐賀県	198.70	195.17	393.87	49.23	40
鹿児島県	198.61	194.92	393.53	49.19	41
北海道	195.75	197.34	393.09	49.14	42
大阪府	196.93	195.98	392.91	49.11	43
滋賀県	197.40	195.49	392.89	49.11	44
和歌山県	196.64	195.76	392.40	49.05	45
沖縄県	201.63	188.74	390.37	48.80	46

### 熊本をのぞく

※偏差値にして49～52という差である。普通なら同じと認識する値であろう。

### レンジ

各問題の偏差値の都道府県別の最大値と最小値を比較すると

	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
max	52.7	52.5	52.2	53.0	51.9	52.0	52.9	52.4
min	48.5	48.8	48.7	48.7	47.1	48.5	46.3	46.9

※科目別でも、一番差が大きい中学数学Aであっても、偏差値で46～53という値は、ほとんど同じである。

※それよりも、同じ教室で、授業を理解している子どもと、理解していない子どもの差が大きい。この差を無くすることは難しいが、小学校高学年で約1割は2学年以上国語、算数で遅れているという、落ちこぼれ・落ちこぼしの問題と、今回明らかになった、貧困の影響などへの対処を積極的に行うことの方が、他の都道府県と競争するよりも大切、ということが、データから明らかと思われる。

なお、この計算では、調査結果の公表に際して、文科省が以下のAの様に述べており、詳細な値が不明であったため、Bの様に平均値の推定を行った。

A(文科省)学力面において、細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないため、平均正答数については小数点第1位、正答率については小数点以下を四捨五入した結果を示す

B 正答数と正答率を相互に計算してみたところ、正答率から正答数(下2桁)を推計した方が誤差が若干少なかったため、正答率から推計した平均正答数を偏差値の推計の基礎とした。

	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
問題数	15	10	16	13	33	9	36	15
正答数(発表)A	11	5.8	12.4	6.2	25.1	6	22.6	6.7
正答数(推計)B	10.95	5.80	12.45	6.16	25.08	6.04	22.61	6.72
標準偏差	3.1	2.4	3.4	2.8	5.4	2.3	8.3	3.6
正答率(%)	73.0	58.0	77.8	47.4	76.0	67.1	62.8	44.8